こんな本も読んでみませんか

「おもしろ読書事典」の作成委員会も，みなさんに紹介したい本を探してみました。ここにのっていない本の中にも，すてきな本がたくさんあります。今度は，あなたが自分の「おもしろ読書事典」を作ってみませんか。

『ありがとう、フォルカーせんせい』

パトリシア・ポラッコ　作・絵　　香咲弥須子　訳　　岩崎書店

おはなしを聞くのが大好きなトリシャ。でもトリシャは本を読もうとすると，字がくねくねした形にしか見えません。小学生になってからは，読めないことをみんなが笑うのです。3年生の時に転校した学校でも同じでした。

ところが5年生になって，フォルカー先生に出会います。フォルカー先生はトリシャの絵がうまいことをほめ，なぜトリシャがいじめられるのかを知ろうとします。そして，字が読めないことがわかると，「きみはかならずよめるようになる　やくそくするよ」というのです。

『うさぎのセーター』　茂市久美子　作　　新野めぐみ　絵　　あかね書房

一人暮らしのおばあさんとうさぎたちとのふれあいをあたたかく描いた童話です。「このセーターをきると、寒さにつよくなり、かぜをひくことがありません。」というチラシを見たおばあさんはうさぎやにセーターを注文します。そして届いたセーターを着ると･･･。

『海で見つけたこと』　八束澄子　作　　沢田としき　絵　　講談社

11歳のなつきは，弟のよしひろと愛犬リンリンと，父さんの車で岡山から鳥取へ向かいます。岡山の喫茶店を閉めることになって，夏休みの間，二人でばあちゃんの家で過ごすことになったのです。梅子ばあちゃんは80歳なのに，大海女といって，ウエットスーツに身を包んで海に潜って海底の貝類を採ってくる仕事をしています。なつきはばあちゃんの仕事ぶりや海が好きになります。そんなある日，父さんから電話が入ります。愛犬リンリンを捨てて，新しいアパートに引っ越したというのです。さて･･･。

『おおきな木』　シェル・シルヴァスタイン　作・絵　　ほんだきいちろう　訳　　篠崎書林

1本のリンゴの木があって，かわいいちびっこと仲良しでした。リンゴの木は，このちびっこがとってもかわいかったのです。だから，ちびっこのお願いはなんでもかなえてあげるのです。暑いときにはおおきな枝ですずしいこかげを，おなかがすけばたくさんのリンゴの実を･･･。まるでお父さんやお母さんのようにね。

『かさをささないシランさん』
谷川俊太郎　アネムスティ・インターナショナル　作　　いせひでこ　絵　　理論社

人と違うこと（行動）をとったというだけで，とらわれの身になった男の人の話です。すぐ身近にある，ちょっと怖い話ですが，似たようなことが今も世界のどこかで起こっているかもしれません。

『キツネ』　マーガレット・ワイルド　文　ロン・ブルックス　絵　寺岡襄　訳　ＢＬ出版

山火事から逃げ出して来たイヌは，やけどで飛べなくなった鳥･カササギをそっとくわえています。必死で駆けて来たイヌもまた，片目が見えなくなっていました。やがてイヌとカササギは，お互いを補い合って，無二の親友になります。

そこへ炎のような赤い毛のキツネが近づきます。仲間としてむかえるイヌ。恐れるカササギ。ある夜，キツネはカササギにささやきます。「おれはイヌよりはやく走れる。おれと二人で行こう。飛ぶことがどんなだったかおぼえているかい？」と…。

『きつねのでんわボックス』　戸田和代　作　　たかすかずみ　絵　　金の星社

山のふもとにある古い電話ボックスでのできごとです。
子どもをなくしたかあさんぎつねと，病気のお母さんに毎日電話をかけにやってくる男の子との心あたたまるお話です。

子どもを思う母の気持ちに，読んでいて涙があふれてくる童話です。

ぜひ一度，読んでみてください。

『くじらいぬ』　あきやまただし　作・絵　ポプラ社

ぼくが，飼っているいぬは大きい。海から来たくじらいぬだ。ぼくと学校に行って，みんなと遊ぶんだ。楽しくなって，ほんとにほしくなっちゃうよ。でっかいくじらいぬにのっけてもらって海に行くといいだろうなあ。

『くまの子ウーフ』　神沢利子　作　井上洋介　絵　ポプラ社

くまの子ウーフは，知りたがり屋のかわいいくまさん。この本には，「さかなには　なぜ　したがない」「ウーフは　おしっこでできているか？」「いざというときって　どんなとき？」など，いつもは気にならないのに考えてみるとよくわからなくなることに，ウーフが一生懸命になるお話がたくさんのっています。時にはとんでもないかんちがいをしたり，新しい発見があったり・・・。
続編や文庫本も出ています。

『コートニー』　ジョン・バーニンガム　作　谷川俊太郎　訳　ほるぷ出版

おじいさん犬のコートニーは，家が火事になった時，逃げおくれた赤ん坊を助け出しました。そんなある日，なぜかコートニーは突然いなくなってしまいます。
あり得ない話の中に，差別に対する批判をちょっぴりこめた本です。

『しろくまだって』　斉藤　洋　作　高畠　純　絵　小峰書店

本物のしろくまが人間に化けて（というよりも，しろくまの着ぐるみを着た人間という設定），人間社会で仕事をし，スターになる話です。なぜか，現実の話のような気になる本です。

『だいじょうぶ　だいじょうぶ』　いとうひろし　作・絵　講談社

困ったときや悩んだときに，いつもおじいちゃんがそばにいて，「だいじょうぶ　だいじょうぶ」と励ましてくれました。
いつも励まされた主人公がやがて大きくなり，今度は人を励ましていきます。

『ながいながいペンギンの話』　いぬいとみこ　作　山田三郎　絵　理論社

ゆきあらしがふきあれる遠い南極大陸で，ペンギンのたまごがふたつかえりました。こわいもの知らずで好奇心がいっぱいのお兄さんルルと，おくびょうだけと心の優しい弟キキ。二匹は産まれたばかりだというのに，巣から離れ，冒険に出かけます。そして，力をあわせて数多くの危険をのりこえ，たくましく育っていきます。

読むと勇気と優しさがわいてくる本です。

『にじいろのしまうま』　こやま峰子　作　やなせたかし　絵　金の星社

森のおくできれいなにじいろのしまうまがうまれました。動物たちは，新しい仲間ができて大よろこび。ところが，雨がふらない暑い日が続いて，川の水がなくなってしまいます。元気のない仲間たちのために，しまうまがしたことは･･･。

『北極のムーシカミーシカ』　いぬいとみこ　作　瀬川康男　絵　理論社

「ものしりのムー」，というまだ見ぬ父親を胸に，ふたごの北極くまのムーシカとミーシカは，お母さんとともに寒い国で暮らします。このふたご兄弟が，アザラシの子や白鳥の娘と仲良しになるなかで，大きく成長していくお話です。

『やさしさの木の下で　ーぼくとびょうきとファミリーハウスー』
くすもとみちこ　文　うえだいずみ　絵　自由国民社

小学校生活の大半を病院で過ごした男の子が語ってくれる絵本です。

ーぼくは，七歳で手術をしたあと，東京の病院に移った。そこには同じ病気の仲間がたくさんいた。大変な治療もあるけど，友だちと励まし合いながら勇気を出した。退院して，三か月学校に通うこともできた。でも，再発してまた入院。

そんな毎日の中で，ぼくとお母さんは「ファミリーハウス」（遠くから病院に来ている家族のためのもう一つの家）に外泊した。そこは，心からほっとできる家で，ぼくたちをいつも支え，癒してくれたー

この本はそんな「ファミリーハウス」づくりを応援するためにつくられました。

「おもしろ読書事典」作成委員会

委 員 長　田中　宏幸（ノートルダム清心女子大学　助教授）
副委員長　内田　恵子（建部町立竹枝小学校　教頭）
委　　員　後藤　敏恵（岡山市立鹿田小学校　学校司書）
〃　　永田　恵子（美作町立美作第一小学校　教諭）
〃　　難波　悦子（玉野市立鉾立小学校　主査（図書））
〃　　二部野　進（岡山県教育センター　指導主事）
〃　　原田かおり（北房町立呰部小学校　教諭）
〃　　三宅　勝己（岡山教育事務所　指導主事）
〃　　三宅　節子（倉敷市立中洲小学校　教諭）
〃　　三宅　貴子（笠岡市立笠岡西中学校　学校図書館司書(白石小兼務)）
〃　　八木　典子（総社市立総社小学校　学校司書）

委員の方以外にも，この事典を作成するために多くの方の御協力をいただきました。

事 務 局　　岡山県教育庁指導課

※　なお，本文中のイラストは，
株式会社　ＭＰＣ『スクールイラスト集』『スクールイラスト集２』『スクールイラスト集３』ならびに
株式会社　ジャストシステム　『一太郎』　を使用しました。

※　環境にやさしい大豆インキを使用しています。